

令和 7 年度 インフルエンザ予防接種予診票

アルコール消毒
不可の方は ✓

*接種希望の方へ:太枠内にボールペン等でご記入下さい。 当日の体温を記入してお持ちください

(鉛筆書き不可)

体温

度

分

住 所	TEL() -
ふりがな 氏 名	男 西暦・大正・昭和・平成・令和 年 月 日
保護者氏名 (代諾者氏名)	(続柄) 女 (満 歳 ヶ月)

質問事項	回答欄		医師欄
1. 今年度、インフルエンザ予防接種は何回目ですか	2回目 (1回目 月 日)	1回目	
2. インフルエンザ予防接種を受けたことがありますか	いいえ	はい	
① その際に具合が悪くなったことはありますか	はい(症状)	いいえ	
② インフルエンザ以外の予防接種の際に具合が悪くなったことはありますか	はい(予防接種名・症状)	いいえ	
3. 今日、体に具合の悪いところがありますか	はい(具体的に)	いいえ	
4. 現在、何かの病気で医師にかかっていますか	はい(病名) 薬を飲んで(いる・いない)	いいえ	
5. 特別な病気(先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、血液疾患、免疫不全 など)で医師の診察を受けていますか	はい(病名)	いいえ	
その主治医に、予防接種を受けてよいといわれましたか	いいえ	はい	
6. 1ヶ月以内に熱が出たり、病気にかかりましたか	はい(病名)	いいえ	
7. けいれん(ひきつけ)をおこしたことがありますか	はい(才頃)	いいえ	
8. 薬や食べ物(鶏肉や鶏卵など)で皮膚に発しんや体の具合が悪くなったことがありますか	はい(薬、食品名)	いいえ	
9. 1ヶ月以内に周囲で麻疹(はしか)風しん、みずぼうそう、おたふくかぜなどにかかった方がいますか	はい(病名)	いいえ	
10. 1ヶ月以内に予防接種を受けましたか	はい(月 日) (予防接種名)	いいえ	
11. (女性の方に)現在 妊娠をしていますか	はい(妊娠 週)	いいえ	
12. その他、質問や健康状態のことで医師に伝えておきたいことがあれば、具体的に書いてください			
13. 医師の診察・説明を受け、予防接種の効果や副反応について理解した上で、接種を希望しますか	はい ・ いいえ 本人又は保護者のサイン		
以上の問診及び診察の結果、今日の予防接種は(可能 ・ 見合わせる) 医師のサイン			
使用 ワクチン名 / 用法・用量		実施場所・医師名・接種日時	
インフルエンザ HA ワクチン Lot No.	皮下注射 ☑ 0.5 mL	実施場所:高槻市北園町 15 番 16 号 6F やまぐち内科・腎臓内科 医師名 :院長 山口嘉土 接種日時:R7 年 月 日 時 分	

インフルエンザ予防接種について

インフルエンザの予防接種を実施するにあたり、受けられる方の健康状態をよく把握する必要があります。そのため、予診票に接種を受けるご本人様もしくは代諾者(保護者)が出来るだけ詳しくご記入下さい。

1 インフルエンザについて

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。感染した人の咳やくしゃみにより空気中に広がったウイルスを吸い込む、もしくは手に付着したウイルスが鼻や口の粘膜を通して体内に入り感染します。インフルエンザの症状は 38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等全身の症状が突然現れ、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。普通の風邪に比べて全身症状が強く、気管支炎や肺炎を伴う等、重症になることがあります。

2 ワクチンについて

令和7年度より、近年流行しているインフルエンザに対応する3価ワクチン（A型株 2 種、B型株1種）に内容が変更されました。

ワクチンの接種は本人の希望により行われ、主に個人の重症化防止を目的としています。重症化や合併症の発病を予防する効果は証明されており、65 歳以上の高齢者福祉施設に入所している高齢者については 34～55%の発病を阻止し、82%の死亡を阻止する効果があったとされています。

ワクチンの予防効果が現れるのは、接種後2週間から5か月程度と考えられています。

医師が必要と認めた場合には、他の予防接種と同時に接種できるため、医師にご相談ください。

3 ワクチンの副反応について

主な副反応は接種部位の赤み(発赤)、はれ(腫脹)、痛み(疼痛)が接種者の 10～20%に起こり、全身反応としては、発熱、頭痛、寒気(悪寒)、だるさ(倦怠感)などが接種者の 5～10%に起こりますが、いずれも通常 2～3 日でなくなります。

また、まれにみられる重い副反応としては、ショック、アナフィラキシー様症状(接種後 30 分以内に出現する発疹、じんましん、赤み(発赤)、掻痒感(かゆみ)、呼吸困難等の重いアレルギー反応のこと)や、ギラン・バレー症候群、急性脳症、急性散在性脳脊髄炎、けいれん、肝機能障がい、喘息発作、血小板減少性紫斑病などが報告されています。

4 予防接種をうける前に

(1) 一般的注意

気になることやわからないことがあれば、予防接種をうける前に担当の医師に質問しましょう。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。現在、病気などで治療中の方、今までに免疫状態の異常を指摘されたことがある方、インフルエンザの予防接種を受けて具合が悪くなったことがある方、インフルエンザワクチンの成分や鶏由来のものに対してアレルギーがあるとされたことがある方は、担当医師とよく相談し、十分に納得して接種を受けましょう。

(2) 予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱している方(通常は 37.5℃を超える場合)
- ②重い急性疾患にかかっている方
- ③インフルエンザ予防接種の成分に対してアナフィラキシー(通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと)をおこしたことがある方
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障がいなどの基礎疾患がある方
- ②過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状がみられた方
- ③過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑤間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器疾患がある方
- ⑥インフルエンザ予防接種の成分または鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対してアレルギーをおこすおそれがある方

(4) 接種を受けた後の注意事項

- ①接種後 30 分は体調が変化することがありますので安静にし、医師とすぐに連絡がとれるようにしましょう。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや体調に変化があった場合は医師にご相談ください。
- ④入浴はさしつかえありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ⑤接種当日は体調の変化に気を配り、激しい運動や大量の飲酒は控えましょう。

5 予防接種健康被害救済制度

予防接種の副反応により、医療機関での治療が必要になった、あるいは生活に支障をきたすような障がいが残ったなど、健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。お住まいの区の保健福祉センターにご連絡ください。国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。